

- |   |
|---|
| 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例<br>E. 学習・研究環境の改善<br>③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮 |
|---|

## 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

##### 〈医療系〉

##### ●群馬大学医学系研究科保健学専攻

##### 「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

「地域保健学研究プロジェクト」を実施していく上で、学生の所属機関における共同研究体制の構築および教員が職場に赴いて研究指導を行う体制が十分ではなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本プログラムが実質的には支援期間が2年半で、さらに「地域保健学研究プロジェクト」は新生を対象としているため、支援期間の2、3年目のみの実施となった。本プロジェクトは新しい取り組みであり、開始から2年間という短期間で、本プロジェクトを通した、大学と地域保健医療機関との共同研究体制がまだ十分には機能していないことによると考えられた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

本プログラムを教育課程のひとつとして長期に継続すること、さらに、広報活動を通して、地域の保健医療機関に本プロジェクトの意義や実施体制を十分に周知していくことが重要である。また、教員側にも本プロジェクトの趣旨を周知、徹底して地域保健医療機関との研究協力体制を強化することが必要である。

##### ●千葉大学医学薬学府創薬生命科学専攻

##### 「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本プログラムでは、社会人や外国人留学生も参加対象とした。外国人留学生は積極的に参加したが、社会人学生の参加はなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

社会人学生が参加しなかった理由の一つは、講義の受講に関する彼らの時間的制約と思われる。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものでは

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

なかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

2回開催したシンポジウムへの参加者（主に、製薬企業の治験等関係者）アンケート結果からは、本プログラムに対する期待や要望は極めて高い。従って、社会人学生を受け入れるためのシステム構築が今後の課題であろう。